

経験積み 一回り成長

第50回社会人野球日本選手権大会（毎日新聞社、日本野球連盟主催）が28日、大阪市で開幕する。9月の全日本クラブ選手権大会を連覇し、2年連続で出場権を得たマツゲン箕島（本拠地・有田市）は昨年に続き開幕試合を引き当てた。ただ昨年は完敗。今年こそと意気込むチームを紹介する。

【藤木俊治】

マツゲン箕島 チーム紹介①

社会人野球 日本選手権

「何も考えずに行けたのがよかった」

全日本クラブ選手権決勝の大和高田クラブ（奈良県）戦で、最後にマウンドに上がったエースの奥田貴太（24）が窮地を振り返る。試合を優位に進

めながら九回は2点差に迫られ、なおも2死満塁とピンチだった。

9月中旬の3連休と休み明けの平日の計4日間の日程で行われた選手権で、前日までに3試合を戦ったうち2試合に登板。投げることを予想していなかったこの日もブルペンを経由せず緊急登板し「まったく準備でき

若手集団挑む 悲願の1勝へ

ていなかった」と漏らす。が、「こういう場面で任せてもらえる立場を自覚しないと冷静だった。代打を遊ゴロに打ち取り、執念で起用に応えた。

打線の要は4番の竹中夢翔（24）。クラブ選手権はけがの影響もあって打順を落としたが「チームはつながりを大事にして

いる。犠飛や進塁打で状態が悪いの打撃ができ、前後の打者で助け合えた」。大和高田クラブは九回に相手突き放す殊勲の適時打も放つなど投打がかみ合った。

右スリークオッターから最速152km/hの速球と多彩な変化球を操る奥田は、ルーキーイヤーだっ

た昨年の日本選手権で強豪のNTT東日本に立ち向かったものの初回に2失点。チームも完敗し、「自信のある直球をはじき返された。リベンジできるチャンスをもたら

た」。この1年は下半身強化で細かい制球を身に付け「勝たせる投球がしたい」と力を込める。

竹中は昨年、プロ野球・オリックス2軍との交流戦で本塁打もマーク。実戦感覚を磨く狙いでチームが例年以上に企業との試合をこなしたことが糧になったという「強い企業と良い勝負ができ、経験値を積めたのが大きい」と胸を張る。

部員は18〜25歳で構成し、36人全員が2000年代生まれ。社会人チームとしては異例の若さだが、それゆえの勢いは期待できる。オリックスから御坊市出身で最速153km/hの右腕、中田惟斗（24）も加わるなど厚みを増した。

昨年の日本選手権の悔しさなども経験し個々が一回り成長した今回。前身の「箕島球友会」時代から通算してこれまで7回の出場で未達成の「悲願の1勝」に若手集団が挑む。



打撃練習する選手。中軸を打つ竹中夢翔（手前右）は社会人野球で花開いた一人でもある
—有田市宮崎町のマツゲン有田球場で